

境港市災害廃棄物処理計画（案）に係るパブリックコメント実施結果について

意見募集期間	令和 7 年 2 月 2 1 日（金）～ 令和 7 年 3 月 1 4 日（金）
資料公開場所	境港市清掃センター、境港市役所本庁舎、市内各公民館、境港市ホームページ
意見提出者数	1 人

件数	番号	該当ページ	意見の主な内容	市の考え方・対応	計画修正の有・無
1	1	4	過去5年間の気象概要について 一般的には30年平均値を用いた平年値を使用しますが、近年温暖化に伴う変化が大きい状況です。気象庁では、現在は30年に満たない場合でも8年以上の観測があれば平年値として使用しています。 近年の状況を反映したい場合は、5年平均より8年以上の平均を推奨します。	計画においては、気象データを他で引用しておらず、本市の気候の概要がわかるよう、近年の気象状況を示したものですので、本計画では5年とします。	無
	2	4	図1-2について 単年のデータは各年の変動が大きく、令和5年は3月8月10月の降水量が著しく少ない年となっており誤解を招くおそれがあります。グラフについては8年以上のデータを集計して図示願います	ご意見のとおり、単年の気象データでは偏りが生じる場合がありますので、表1-2に合わせ、5年間の平均値のグラフに変更します。	有
	3	4	気象庁では気象統計に年度の表現はありません。 年度を使用すると会計年度を想起される方がおられるかもしれません。	ご意見のとおりです。年表記に変更します。	有
	4	10	貴計画では、津波のない地震として鳥取県西部地震断層地震を採用しています。しかし、鳥取県地域防災計画の想定被害データからは宍道（鹿島）断層（39km）の被害想定が最大となっています。こちらを採用して、現計画を見直すべきです。 境港市の地域防災計画が鳥取県西部地震断層地震を採用していますがこれも早急に見直すべきです。また、鳥取県災害廃棄物処理計画では、宍道（鹿島）断層（22km）で算出しており、被害想定が少なくなっています。これについても、県への提言をお願いします。 発生確率値の高い地震を想定しないのは行政の不備です。 災害の基本計画は最悪の状況を想定するのが基本です。	本計画は、環境省が定める「災害廃棄物対策指針」に基づき、「鳥取県災害廃棄物処理計画」と「境港市地域防災計画」との整合を図り策定するものです。 本市地域防災計画では、「鳥取県地震・津波被害想定調査報告書において、宍道（鹿島）断層（39km）は、原子力規制委員会が島根原子力発電所の安全性を最大限に確保するために用いられた知見であり、政府の地震調査研究推進本部においては、宍道（鹿島）断層の断層面の長さは「地表で確認される断層長さと同じ約21kmもしくはそれ以上と推定されます。」とされており、行政が行う一般防災対策としては、宍道（鹿島）断層（22km）が適切であると考えられる。そこで宍道（鹿島）断層（22km）と鳥取県西部地震断層を比較した場合、鳥取県西部地震断層による地震被害のほうが本市に大きな影響を与えるため、鳥取県西部地震断層の地震により想定した。」としております。 このことから、本計画においては、地震被害として本市に最も大きな影響を及ぼす鳥取県西部地震断層地震、地震と津波の複合的被害により災害廃棄物の発生量が最大となるF55断層地震、津波被害が最大となる佐渡島北方沖断層地震の3つの地震災害を想定される災害として採用しております。	無